



| | |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| Title | ＜研究ノート＞メタファとカテゴリー化 |
| Author(s) | 杉本, 孝司 |
| Citation | 大阪外国語大学英米研究. 2007, 31, p. 61-68 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/99312 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

メタファとカテゴリー化

－研究ノート－

杉 本 孝 司

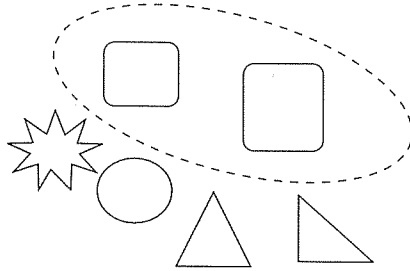
1 はじめに

杉本（2003a, b, 2004, 2005, 2006a, b, c, d）などで述べてきていることだが、メタファの原動力というかメタファを可能にしている最も重要な我々の概念作用は、二つの異なる経験領域に類似性を見て取れるということである（もちろんこのような概念作用は必ずしも意識的である必要はないことは言うまでもない）。まったく異質な二つの概念領域間にメタファ的理解が成立するということは、その領域間に存在する類似性を意識的／無意識的に概念レベルで把握／理解しているからと言える。（この類似性を理解するということが、おそらくは脳細胞レベルでの異なる細胞群の同時活性化を促す原動力として働いているとも考えられる。）本稿はこの考え方に基づく今後の研究展開への現時点までのくくりとして、類似性の捕捉としての、つまりカテゴリー化の一種としての、メタファの位置づけに関わる諸概念を项目的に列挙しておこうとするものである。以下の内容の一部には杉本（2004, 2005, 2006a, b, c, d）などで発表したものもあるが、いずれも今後の発展的研究へのノートとして理解して頂ければ幸いである。

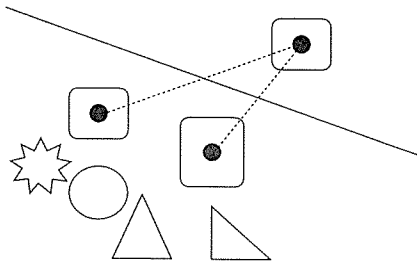
2 類似性とカテゴリー化

カテゴリー化にも様々なことが関わっている（cf. Lakoff（1987））がメタファを考える場合のカテゴリー化にもっとも重要に関わるのは類似性に基づく

カテゴリー化である。類似性に基づくカテゴリー化とは例えば、次の図形で、



点線で囲んだ二つが他の図形とは違って類似している、と判断されるような場合のことで、これらが類似している、とは何か共通の判断基準に照らし合わせて似ていると判断しているからだと言える。この状況は例えば次のように図示できる。



実線より上にあるスキーマティックな情報が基準として働き実線より下の二つの長方形が他のどの対よりも似ているとされるようなことである。換言すれば類似性の裏には必ずその類似性の捕捉を可能にしている判断基準があるような場合と言える。このような観点から首尾一貫して捉えることができるメタファに関わる諸概念には次のようなものがあると考えられよう。

3 いわゆる Non-primary metaphors

これらの内、

- (a) Simple non-primary metaphor (Resemblance metaphor)

e.g. Achilles is a lion

(b) Image metaphor

e.g. Woman's waist as an hourglass

(c) Generic Is Specific metaphor

e.g. Blind blames the ditch

これらは、その理解様式を説明するにあたって、(a) はGrady (1997a) が、(b) と (c) は例えば Lakoff (1993) などですでに類似性に基づく議論が展開されている。ことわざや寓話の理解なども (c) に類するものであると考えられる。

4 いわゆる structural metaphors

(d) Non-primary (Compositional) metaphor/Structural metaphor

e.g. Love is a journey

この種のメタファも以下のごとく、ソース領域とターゲット領域の写像を可能にしているのはその共通部分として機能し得る類似性 (図 (杉本 (2006 b) から一部修正して採録) では「類似性」の項目名で中間位置に配したイメージスキーマ的情報) の存在であると言える。

| [ソース領域] | <類 似 性> | [ターゲット領域] |
|---------------|--------------------------|---------------------|
| JOURNEY | | LOVE |
| ・ travellers | <TRAJECTORS> | ・ lovers |
| ・ vehicle | <CONTAINER> | ・ love relationship |
| ・ destination | <END OF PATH> | ・ common purpose |
| ・ obstacle | <IMPEDIMENT TO MOVEMENT> | ・ difficulty |

5 科学におけるメタファ

(e) Metaphor in Science

e.g. An atom as a solar system

この類いも類似性に基づくことは明らかだろう (科学におけるメタファに関してはBrown (2005)などを参照)。

6 類 推

(f) Analogy

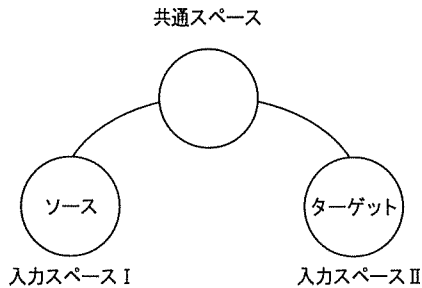
e.g. As bees eat honey, so care eats heart.

(以下の 7 を参照)

7 共通スペース

(g) Generic Space

メンタルスペース理論 (Fauconnier (1997), Fauconnier and Turner (2002)) における共通スペースの役割は次の図の通り、まさに類似性の捕捉以外の何ものでもない。またメンタルスペース理論が上記 (6) 類推の説明にもうまく機能することは周知の所である。



8 不変性仮説と類似性

杉本 (2006b) で述べた通り、不変性仮説とはメタファ的写像におけるソースとターゲットが類似性として共有する認知トポロジー (あるいはイメージスキーマ) の存在を述べたものに過ぎない。つまり不変性仮説が予測する内容とは、メタファを特徴づける類似性以外の何ものでもない、ということが言える。(杉本 (2006b) の趣旨は、このことから不変性仮説なるものは理論的にその存在が予測されているものであり、敢えて別途導入したり述べたりする必要のない概念であることを示したものと言える。)

9 いわゆる **Primary-metaphors** とイメージスキーマ

このことに関してはこれまでも様々な角度から考察してきたが（杉本（2003 a, b ; 2005等））、特筆すべきこととして、これらにおいてもカテゴリー化の観点から考え直す方向がGrady（2006）の Supercategory の考え方に見られる。また同時に脳研究の観点からの興味ある報告（Dodge and Lakoff（2006））も出されている。概観しておけば、先ず Grady（2006, 47-48）では、Primary metaphor のソースとターゲットが何も共有するものを持たないとする考え方（Grady（1997）で言う所の correlation に基づく考え方）を修正し、次のように述べている。

Does this mean that the source and target concepts of a primary metaphor share nothing at all? I believe they do share structure, but on a level more abstract than the one at which sensory images are represented. I will refer to this level as the “superschematic” level of conceptual organization, since it transcends the distinction between sensory and response content. It includes information like the following : *Ontological category* (e.g., Event, Process, Thing ; Nominal, Relational) ; *Scalarity and Dimensionality* ; *Aspect* (e.g., Punctual, Durative, fast/slow, etc.) ; *Boundedness* ; *Arity* (i.e., the number of arguments in a relation) ; *Trajector-Landmark structure* (i.e., figure-ground organization) ; *Causal structure* ; *Profile-Base structure* ; *Simplex vs. Complex* (i.e., internal configuration).

そしてこの身体的基盤に基づく “superschematic level” のスキーマを指して Superschema と呼んでいる。もちろん、Grady は「経験」の重要性も同じ個所で訴えている。しかしこの Superschema と彼が呼ぶものは、Similarity の判断基準として機能するものであり、Primary-metaphor のソースとターゲットが類似性により捕捉されるとする考え方に部分的に同調したものと理解できる。Grady は上掲個所で、primary-metaphor のターゲットとソースをそれ

それぞれ Response Schema と Image Schema と呼び直し、その両スキーマの上位概念として Superschema を位置づけている。(Primary-schema のターゲットを Image Schema と呼ぶことには問題があると思うが今はこの点は取り上げない。) この間の事情を Grady (2006, 48) からの以下の表 (Table 1) を引用することにより示しておこう。

| Image Schema | Response Schema | Superschema |
|---------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| Heaviness | Difficulty | Scalar property |
| Up | More | Scalar property |
| Proximity | Similarity | Scalar binary relation |
| Arriving at a Destination/Goal (Emerging from) | Achieving success (Resulting from) | Bounded (punctual) event involving an actor (TR) and a LM |
| Source | Cause | Binary temporal relation involving TR and LM |
| Heat | Anger | Unbounded entity |

また Dodge and Lakoff (2006, 86) では脳研究の成果から次の点が述べられている。

- Abstract schematic structures are not learned by a process of abstraction over many instances, but rather are imposed by brain structure.
- Image schemas are created by our brain structures; they have been discovered, not just imposed on language by analysts.

ここではイメージスキーマの習得に関して、experience-based な立場から brain-based の立場へ大きくシフトしている。このことがメタファ研究に対して意味する所は大きい。なぜなら、どのようなイメージスキーマを習得するかということが何らかの生得的認知メカニズムで決定されていることになり、我々が異なる概念領域間にイメージスキーマ (の組み合わせ) に基づくメタファ的写像関係を見いだす (例えば (4) の structural metaphors の例を参照) のは、まさにこの脳に基盤を持ついわば生得的に保証されたイメージスキーマ

マがソースとターゲットの両概念領域間の類似性捕捉の基盤を提供していることになるからである。

10 おわりに

以上、類似性の捕捉としての、つまりカテゴリー化の一種としての、メタファの位置づけに関わる諸概念を項目的に列挙してきた。もともと杉本（2003a）あたりから、諸学者が散発的に唱えてきた類似性によるメタファ分析のことを真剣に考えるようになったが、一番の問題は *primary-metaphors* であった。しかし上記9でも紹介したような事情もあり、現時点での見込みでは、かなり多くの事実や分析がこの方向に収斂しつつある。本稿は、今後も更にこのような点を中心に論考を深めるための準備段階としての研究ノートとした。

References

Brown, Theodore L.

2005 *MAKING TRUTH : Metaphor in Science*. Ill: The University of Illinois Press.

Dodge, Ellen, and George Lakoff

2006 Image schemas: From linguistic analysis to neural binding grounding. In Hampe (ed.), 57-92.

Fauconnier, Gilles

1997 *Mappings in Thought and Language*. N.Y.: Cambridge University Press.

Fauconnier, Gilles, and Mark Turner

2002 *The Way We Think*. N.Y.: Basic Books.

Grady, Joseph E.

1997a *Foundations of Meaning: Primary Metaphors and Primary Scenes*. Ph.D. dissertation: University of California at Berkeley.

1997b A typology of motivation for conceptual metaphor: correlation vs. resemblance. In Gibbs and Steen (eds.) *Metaphor in Cognitive Linguistics*, 79-100. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

2006 Image schemas and perception: Refining a definition. In Hampe (ed.), 35-55.

Hampe, Beate (ed.) (2006) (In cooperation with J.E. Grady) *From Perception to Meaning: Image Schemas in Cognitive Linguistics*. Berlin: Mouton de Gruyter.

Lakoff, George

1987 *Women, Fire, and Dangerous Things*. Chicago: The University of Chicago Press.

Lakoff, George, and Mark Johnson

1993 The contemporary theory of metaphor. In *Metaphor and Thought*, ed. Andrew Ortony, 202-251. Cambridge : Cambridge University Press.

杉本孝司

- 2003a 「写像制約について」(2003年10月19日) 第28回関西言語学会(於神戸市外国語大学)
- 2003b 「メタファ理論の貢献と今後」(2003年11月16日) 日本英語学会第21回大会シンポジウム『メタファ理論を考える』(於静岡県立大学)
- 2004 「類似性と共通スペース: メタファ理論とスペース融合モデルの観点から」(研究ノート)(2004年3月31日刊)『英米研究』第28号, pp.195-202. 大阪外国語大学英米学会.
- 2005 「メタファと意味解釈」(口頭発表)(2005年9月18日) 日本認知言語学会第6回大会シンポジウム『認知意味論の新展開ーメタファを中心にー』『日本認知言語学会第6回大会 Conference Handbook 2005』pp.267-270.
- 2006a 「メトニミとメタファ: 写像と類似性の観点から」(研究ノート)(2006年3月31日刊)『英米研究』第30号, pp.99-105. 大阪外国語大学英米学会.
- 2006b 「不変性仮説と類似性」(2006年4月30日刊)『言外と言内の交流分野: 小泉保博士傘寿記念論文集』pp.305-310. 大学書林.
- 2006c 「不変性仮説とカテゴリー化」(2006年8月26日) 京都言語学コロキウム第3回年次大会(KLCAM-3)(於京都大学 芝蘭会館)
- 2006d 「メタファと意味理解」『日本認知言語学会論文集 第6巻』(JCLA 6) pp. 508-518. 日本認知言語学会.